



令和5年第2回
まちづくり懇話会 ワークショップ

実施報告

東区総務企画課

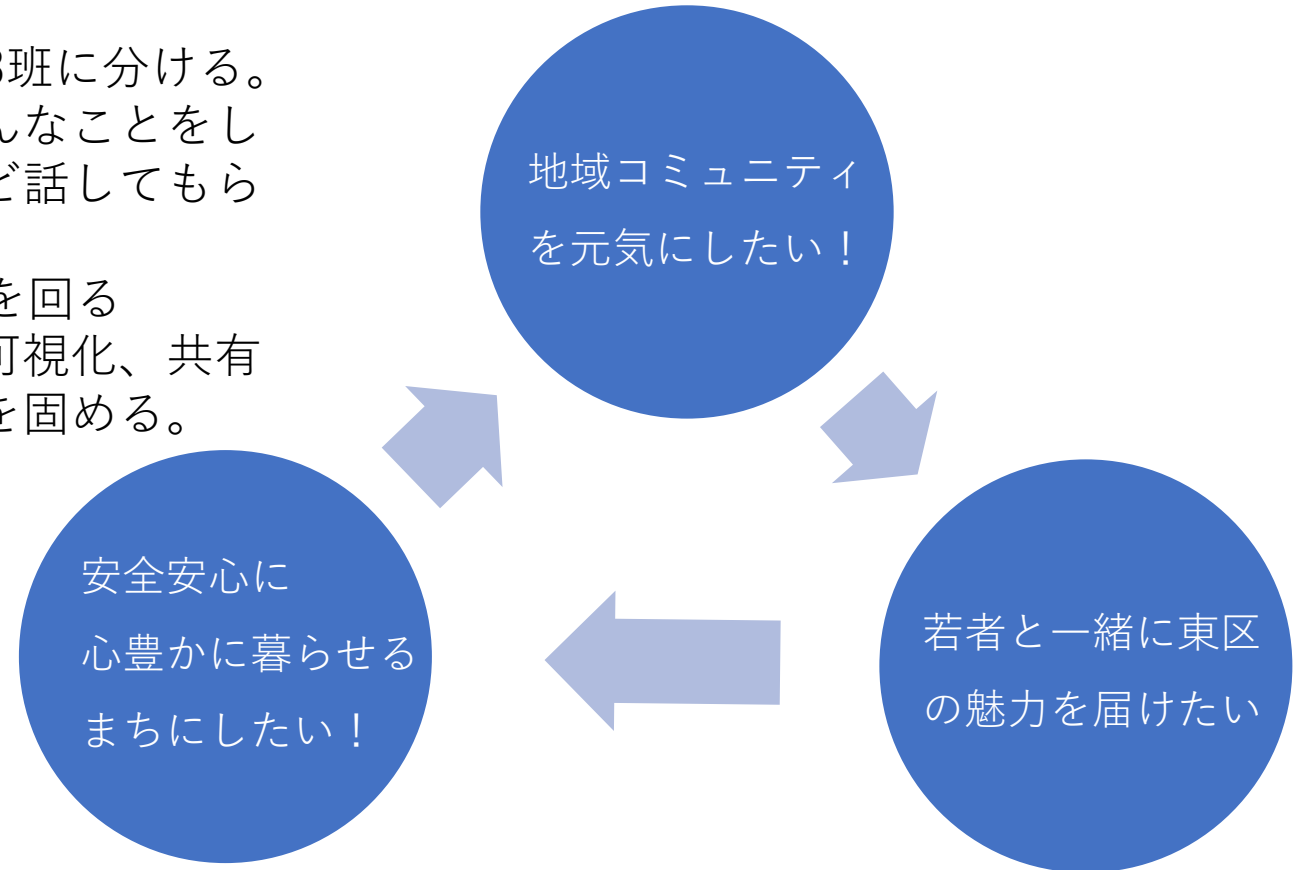
第2回 まちづくり懇話会 ワークショップ

- 目的 -

来年度、実施を検討している事業における担当者の考えや課題等に対し、委員から意見、アイデアをもらい次年度事業に活かす。

- 進め方 -

- ・各事業を3つのテーマ毎に分け3班作り、委員も3班に分ける。
- ・各事業の担当者はそれぞれの班で、事業で「こんなことをしたい」「でもこういう課題（悩み）がある」など話してもらい、それをもとに意見、アイデアを出し合う。
- ・設定時間（20分）経過後、委員は各テーマの班を回る
- ・出た意見はポストイット等に出し出し、情報の可視化、共有化を図る。担当者はそれを参考に後日事業内容を固める。



テーマ

地域コミュニティを元気にしたい！

東区で行っている事業

◆東区地域コミュニティづくり支援事業

- ・コミュニティづくり支援補助金の交付
- ・支援メニューを作成し、地域活動への支援強化を行う

◆文化スポーツ行事への東区長賞等授与事業

- ・地域団体の育成や支援として、文化スポーツ行事の際に区長賞の提供を行う

◆あさひばりビング(地域交流スペース)活用支援事業

- ・地域交流スペースの常設
- ・ワークショップの開催

◆地域と企業を結ぶまちづくり応援事業

- ・企業と、地域団体がつながりをつくり、持続可能な地域づくりを支援する

御意見ください！

補助金を申請する団体が固定化している。もっと多くの団体に活用してもらうには？

ICTを地域のコミュニティづくりに活かしてほしいけど、どうしたらICTを取りれてもらえる？

ワークショップに地域からの参加が少ない。参加者を増やすためには？



テーマ 地域コミュニティを元気にしたい！

地域コミュニティづくり支援に関して

（地域コミュニティづくり支援補助金について）

- ・制度を知ってもらうことが重要。地域団体だけでなく関連事業所にも周知する。
- ・ICT講座のついでに、補助金の説明会など開催しては。
- ・補助金は「あげますよ」のイメージがある。事例を示しながら「やってみませんか」で提案してみてもいい。
- ・事例を見せてイメージを持ち、先が見えると踏みこみやすい。やってみようと思う。
- ・事例を動画で。

（地域のICTの活性化について）

- ・ICT講座を継続してみてもいい。参加者が少なくても、参加者の1割でもSNSなど始めてもらえると人づてにひろかっていくことも期待できる。すぐに効果が現れるものでもないと思う。少し長めのスパンで見てもいいのでは。
- ・SNSの普及は防災など他分野にもつながる。
- ・地域団体役員以外の人にSNS等をいかにひろげていくかも重要。
- ・学生が教えるSNS講座などはいかが。

地域と企業を結ぶまちづくり応援事業に関して

- ・地域課題解決のひとつの手法として進めていってほしい。
- ・貧困家庭の子は日中エアコンの使用を抑えるため家で勉強できず、勉強場所の確保も大きな課題。場所を提供してくれる企業などがあると助かると思う。
- ・ワークショップの開催場所について、公民館から変えてみては。役所の施設は行きづらく感じる方もおられる。
- ・おしゃれで、行きたくなるような雰囲気を。
- ・ワークショップ中もBGMを流してみたりしては。

東区からの情報発信全般に関して

- ・学校の安心メールも活用しては。
- ・情報発信のツールを世代ごとに使い分け。
- ・広報の責任者を作る。
- ・企業なども含めて、できる人、企業等に依頼する。
- ・インスタグラムフォロワーを増やす。
- ・イベント系は事前に案内告知（おもしろい興味を引くもの）する。
- ・「おもしろそう！！」と思ってもらう写真を使う。
- ・学生を活用した東区役所イン스타그램マーを置く。
- ・ポスター活用の工夫を考えては。目を引くポスター、チラシの作成を企業を巻き込んで実施する。
- ・受け手に引かれるようなものを。

いただいたご意見



テーマ

安心安全に心豊かに暮らせるまちにしたい！

東区で行っている事業

◆安全安心のまちづくり事業

- ・高校生と協働で行う交通安全啓発事業

◆地域防災合同訓練・防災啓発事業

- ・校区や避難所ごとの避難所運営等の訓練実施

◆あさひばみんなの防災フェスタ開催事業

- ・防災の知識を楽しみながら学び、地域の防災力向上を目指す事業

◆東区健康まちづくり推進員支援事業

- ・健康まちづくり推進員の養成や活動支援

◆子育て支援ネットワーク活性化事業

- ・地域の主体的な子育て支援活動への支援

◆地域ささえあい推進事業

- ・認知症への理解を深め、住民による支え合いを推進する

御意見ください！

色んな技能をもったボランティアを地域でどのように活かしてもらえるか？

熊本地震の教訓などを風化させないために、どんな体験や研修が必要？

学生や若い世代に届くような啓発の方法とは？



テーマ 安心安全に心豊かに暮らせるまちにしたい！

福祉（健康まちづくり推進員、子育て支援ネットワーク等）に関して

- ・社会的弱者の減少している。声があがりにくい。
- ・子育て世代と地域高齢者をつなぐ世代間交流を生む仕組みづくりが重要
- ・子育てする人の孤立防止、高齢者認知症予防のために地域包括ケアシステムが上手く活用できればよい。
- ・自治会以外でも地域と人をつなげる仕組みあればよい。
- ・子育て支援ネットワークとPTAや小学校がつながるとよい（つながりが強くなる）。
- ・各校区子育て支援ネットワーク同士のつながりがもっとあるとよいのでは。
- ・東区小学校コミュニティスクール科の検討をしては。不登校、発達障害、要保護世帯の子の支援につなげる。
- ・学校の空き教室や市民先生の活用した取組を。
- ・地域活動の拠点となるような学校施設の複合化。子ども達が安心して遊べる場所としても⇒セキュリティの問題あるが先進事例あり
- ・ボランティアと当事者がつながるイベントを開催しては。「楽しい」「参加したい」という内容で。家族も参加。家族、当事者、ボランティアマッチングできる。
- ・若者など参加者にとってメリットのあることを。
- ・共生社会をつくっていく土台づくりとそれをどのように周知していくかも大事。
- ・ボランティア活動の周知の強化。
- ・ボランティアとボランティアを必要とする方がつながる場をつくることが大事。
仲間づくりの場にもなるコミュニティの場が必要。
- ・ボランティアの周知、まずは知ってもらうことが必要（地域のどこで活動しているのか）
- ・（福祉に関する）相談窓口があっても知られていない。
- ・地域性を知ることも必要。
- ・企業の参入（地域力パワーアップ大作戦の活用）。

いただいたご意見



テーマ 安心安全に心豊かに暮らせるまちにしたい！

防災に関する取組に関して

- ・熊本地震と暮らしを結びつけ、防災に関する意識の向上を図るような仕掛けがあれば。
- ・避難訓練は消防車に乗る体験がしたい
- ・日頃からのコミュニケーションづくり、町内単位での居場所やコミュニティ作りに取り組み、防災に活かす。
- ・各地域ごとに（町内）若い世代、支援が必要な方などを把握し、災害の際に協力出来る体制づくりを確立させる。
- ・防災をより日常的に考えてもらえるように訓練等への参加を促してほしい。
- ・若い世代の方が自治会活動や防災への参加しやすい活動を。学校で自治会の内容などを話したり。
- ・自分にとってのメリットがあると若い人は動く。
- ・若い人が経験してくれるとSNSなどで情報発信してくれるのではないか。
- ・まずは訓練などに1回来てもらおう工夫+αで防災への意識向上を。
- ・校区でなく東区全体で防災に取り組む。
- ・地域自治会までは周知しているがボランティアが浸透していない（知らない）。
- ・親子で避難所キャンプ（小学校に宿泊）を開催しては。新聞紙スリッパ、ろうそく作り、炊き出しなどを実践。
- ・小、中、高校、大学ボランティアのほかに地域貢献したい企業を巻き込んで取り組む。
- ・訓練などを実施している自治会への加入についてメリット・デメリットの明確化。
- ・担い手不足の解消につながる取組を。
- ・避難場所、防災倉庫の設置場所を知らない人もいる。もっと周知を。

いただいたご意見



若者と一緒に東区の魅力を届けたい！

東区で行っている事業

- ◆美化啓発事業（ごみステーション管理啓発）
 - ・ごみステーションに掲示する啓発ポスターの募集
- ◆東区魅力発信事業
 - ・Instagram等を活用した東区の魅力の受発信
- ◆（新規）若者まちづくりリーダーズ事業
 - ・若い世代によるまちづくりの計画と実現
- ◆けんぐん食と健康まつり（旧東区民まつり）
開催事業
 - ・地域主体での地域間、多世代交流のイベント開催支援

御意見ください！

啓発や情報を届けたい対象への
発信の方法や手法が知りたい

若者がまちづくりに積極的に参
加してもらうためには、どんな
募集の仕方がいいのか

地域の担い手発掘するには、
どんな仕組みが必要か



テーマ 若者と一緒に東区の魅力を届けたい！

東区の魅力発信に関して

- ・若い世代に東区の魅力を届けてほしい。
- ・ターゲット（若者など）を明確にした魅力発信を。若者の線引き⇒小・中、学生～50代
- ・インスタグラム、フェイスブック、HP、世代によって使用している広報媒体は様々。X（旧ツイッター）も使ってみては？
- ・若い人に向けては若い人が発信。世代ごとに魅力ニーズは違う。合わせた発信を。
- ・東区の魅力資源の見直し（ハード面・ソフト面）。
- ・企業等の産・官・民連携のつながりも魅力になるのでは。地域と企業とのマッチングをおおいに進めてほしい。
- ・東区の文化（中村汀女さん）・神社・まつりなど知られていないものがたくさんある。
- ・宿泊施設が少ない。民泊があったら泊まる人が増える。魅力も感じてもらえる。
- ・「広場ニスト」の育成を市が始めた（市街地整備課）。今後活用しては。

美化活動啓発事業に関して

- ・清掃活動等の地域活動をする人/しない人の問題。清掃活動の担い手も不足している。
- ・どういう担い手が欲しいか、ニーズを伝える
- ・商店街×高校⇒担い手が現れるのでは。生徒会と協力（登校時ゴミ拾い）してみては。
- ・若い世帯の清掃活動参加が伸び悩み⇒ボランティア団体「グリーンバード」は若い世代で動かしている。スタッフとして将来残ってくれている。
- ・拾ったゴミでのアート、ゴミ拾いグランプリなど開催しては？
- ・ポスターのコンクールに企業を入れてみては。



「若者と一緒に東区の魅力を届けたい！」

若者まちづくりリーダーズ事業に関して

- ・健軍や地域をよくしたい若者はいる。どう取り込むかが大事
- ・若者にとって、おもしろいメリットが必要。
- ・やらされるではなく、やって楽しい⇒郷土愛へつながる。自分のものと思う気持ちを育む。
- ・東区学生「まちづくりをしてみよう」（形にする）
- ・形にする場所を提供しチャンスにつなげる。
- ・高校生に郷土愛をもつような事業に。
- ・郷土愛をいかに育てるかが大事。
- ・小・中・高までくらいで地域で「何を経験したか」が大事。
- ・ターゲットを高校生にしてみても？
- ・今の高校生等が将来地元に戻ってきた時「ここを守りたい」の気持ちをもってもらうには、今楽しい経験をしてもらう必要がある。
- ・高校を回って推薦してもらって集めてはどうか。
- ・仕事をしている大人ははずす。
- ・子供の頃からまちづくりに参加する。大人になったときもまちづくりに関する意識が続く、それが当たり前になっていく。
- ・高校のある地域が地元じゃない高校生もいる。小・中学生は地元。その世代も検討しては。
- ・小・中学生のハートをつかむような取組を。
- ・若者が大人になるまでの数十年単位の計画でやる。
- ・他都市の同様の事例を紹介することで、若者もまちづくりのイメージが湧きやすいのでは
- ・若者が考えたまちづくりの発表の場として、区民まつり（食と健康まつり）を活用しては。

けんぐん食と健康まつりに関して

- ・健軍だけでなく、18校区（東区全体）参画の仕組みを作り、持続可能なまつりに。
- ・「若者まちづくり」などの発表の場としてもっと活用できる。

いただいたご意見

